

持続可能な除排雪とは？

降雪期に入り、多くの労力やコストをかけて、幹線道路や自宅前の生活道路、通学路の除排雪が実施されています。しかし、将来的な担い手不足や財政難など、様々な課題が山積みです。今号では、私たちの生活に密接な除排雪について考えてみましょう。

除排雪費用は、学校建て替え経費 6 校分

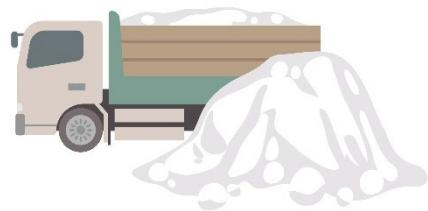
札幌市は、世界に類を見ない積雪寒冷の大都市です。除雪する道路延長は、約 5,500km、排雪は、約 4,300km に及びます。また、除排雪には約 4,000 人の方々が従事し、除排雪機械は約 1,400 台が稼働しています。



札幌市の除排雪には、令和 6 年度で約 278 億円の経費がかかっています。これは、平均的な小中学校建て替えの事業費 45.9 億円 (R6.12 市学校施設維持更新基本計画データ) の約 6 校分と、とても大きな経費がかかっています。

自宅前の道路に雪がなく、幹線道路も車や人の通行に支障がないことは誰もが望むことです。しかし、今や除雪オペレーター、作業員ともに半数以上が 50 歳以上で、担い手の高齢化が進んでいます。除排雪費用も、この 10 年で 97 億円増加するなど限りある予算をどう確保するかなど、課題は山積みです。

要望が多いが高コストの排雪作業



各種の市民意識調査などでは、除排雪に関する要望が最も多く、今後、力を入れてほしい道路は、幹線道路が 23.7%、生活道路が 70.5% となっています。生活道路で重視すべき点は、「道路脇の雪山の高さ」や「交差点の見通し」が 41.5%、「路面状況」が 27.7%、「道路の幅」が 23.0% となっています。

一方で、道路の雪を雪捨て場に捨てる排雪作業は、幹線道路を例にすると、必要となる人員は除雪作業の約 4 倍、費用は約 64 倍と言われます。人手やコスト面で、現行の除排雪作業の継続が困難になる可能性が高く、持続可能な体制の確立が求められています。

他人事ではなく、市民みんなの問題

様々な課題を抱えた除排雪ですが、札幌市では、雪対策審議会を設置し、今後 10 年程度の短期と 10 年～30 年程度の長期にわたる雪対策のあり方の検討を進めています。

具体的には、まず、持続可能な除排雪体制の構築に向けて、人口減少、高齢化に伴う「除雪従事者の確保・育成」、AI や自動運転など技術革新による「除排雪作業の省力化・効率化」、除雪従事者の減少を踏まえた「作業方法（冬の道路環境）」の見直しなどです。

次に、市民ニーズや気象変化に対応した除排雪方法の見直しに向けて、生活道路の「除排雪方法（パートナーシップ排雪制度等を含む）」などのほか、雪対策予算規模の検討などが進められています。

大雪時の外出や自動車使用自粛など市民の行動変容も求められるかもしれません。令和8年度には、札幌市の雪対策の「基本方針」が策定され、町内会も一部経費を負担しながら、生活道路の排雪を行う「パートナーシップ排雪」なども含む、令和9年度以降の生活道路除排雪のあり方の方向性が整理される予定です。



▲雪害から市民を守り、持続な除排雪体制へ

栄東地区中学校クラブ紹介

栄町中学校 合唱部

栄町中学校合唱部は、部員 13 名で活動しています。

主な活動として、2つの大きなコンクールに出場、札幌コンサートホール Kitara での演奏会、中文連や地域の演奏会に参加させていただいている。



私たち合唱部は食べることが大好きです。特に真夏のアイス、秋にはたこやき、冬が近づくと顧問の藤岡先生お手製豚汁、年間通してのお菓子の差し入れが楽しみです。

昨年は目標にしていた全国大会出場には届きませんでしたが、令和8年 11 月に「全日本合唱コンクール全国大会 一般部門」が北海道開催となります。校長先生をはじめ教職員、保護者、地域の方々に全国大会の晴れの舞台の私たちをぜひ見ていただきたいので、強い志をもって来年度も惜しみない努力を続けることを決意しています。